英語を学び、異なる文化に触れた２週間のセブ留学

12 歳（参加時）｜フィリピン・セブ｜８月２日～15 日（14 日間）

１　現地での活動内容



私は夏休みに２週間、フィリピンのセブ島にある語学学校へ留学しました。英語を学び、英語での会話に慣れることが目的でした。語学学校では、最初にテストを受け、その結果に応じた内容の授業を受けました。年齢に関係なく、英語の力によって上のレベルのクラスで学ぶこともできる仕組みでした。授業にはマンツーマンレッスンとグループレッスンがあり、割合は半分ずつでした。マンツーマンレッスンでは、先生と生徒がスケジュールを確認し、指定された教室へ行って授業を受けます。グループレッスンでは、同じくらいの英語力の生徒たちと一緒に勉強しました。私が受けた授業では、be 動詞の基本や文章問題などに取り組みました。

１日に８レッスンを受け、毎日英語を学びました。最終日には、クラスメイトの前で、セブ島で過ごした感想や先生への感謝について発表しました。発表では、最初は英語を聞き取ることが難しかったけれど、毎日教えてもらううちに少しずつ分かるようになったことを話しました。また、先生たちが明るく声をかけてくれたことへの感謝を伝えました。みんなの前に立つと緊張しましたが、自分の言葉で最後まで伝えられたときは、ほっとしました。もっと伝えたいこともあり、次は自分の気持ちをもっと詳しく英語で話せるようになりたいと思いました。

授業のない週末には、セブ島南部のオスロブへ行きました。朝２時に出発したのでとても眠かったですが、海でジンベエザメと一緒に泳ぐことができました。滞在中は、英語の学習に加えて、現地の食事や街の様子、自然にも触れました。

２　活動を通じて得た気づき・学び

もともと英語は得意ではありませんでしたが、１日に８レッスンを受ける中で、先生が言っていることがだんだん分かるようになりました。自分でも英語で話せるようになっていきました。私が出会った先生たちは明るい人が多かったです。「How are you?」と聞いたときも、前向きな返事が返ってきたことが印象に残っています。授業で英語を学ぶとともに、先生たちとのやり取りを通して、現地の人々の人柄にも触れることができました。

授業では、先生と好きな食べ物について話したことが心に残っています。日本でよく食べるものを聞かれ、知っている単語を使って説明しました。うまく言えずに止まってしまったときも、先生は待ってくれました。先生の好きなフィリピン料理についても聞き、食べ物の話からお互いの国のことを知ることができました。英語は問題を解くためだけでなく、相手のことを知り、自分のことを伝えるためにも使えるのだと感じました。

英語の勉強以外で印象に残ったのは、食文化です。現地で見たファストフード店「ジョリビー」のメニューには、ハンバーガーやチキン、ポテト、パスタだけでなく、ご飯もありました。食事のメニューや組み合わせにも、日本との違いがあると感じました。街の様子にも驚きました。セブには発展している街並みがあり、夜景もとてもきれいでした。一方で、ホテルの周辺から少し離れると、暮らしの様子が異なる地域もあり、貧困についても考えました。現地で過ごすことで、そこで暮らす人々の生活にも目を向ける機会がありました。フィリピンには日本とは違う文化があり、良いと感じることも、戸惑うこともありました。それでも、私はそうした違いも含めてフィリピンの魅力だと考えています。今回の留学を通して、フィリピンや現地の人々が好きになりました。

3　今後への活かし方

今回の留学を通して、これからも英語の勉強を続けていきたいと思いました。これからは、単語や文法を覚えるだけでなく、声に出して英語を使う時間も作りたいです。学校で習った表現を使って、その日にあったことを短い文で話したり、英語の音声を聞いてまねして読んだりしたいと思います。言いたかったのに言えなかった言葉も調べて、次に同じような場面があったときに使えるようにしたいです。

また、英語を使って、外国の人と好きな食べ物や学校生活について話してみたいです。相手の国のことを教えてもらうだけでなく、日本の食べ物や、自分が暮らしている軽井沢のことも伝えられたらうれしいです。今回の留学で出会った先生たちとまた話す機会があれば、前よりも自分の言葉で会話ができるようになっていたいと思います。



